

(資料2)

平成21年度 佐賀県立佐賀商業高等学校 学校評価表

1. 学校教育目標
経済社会の各分野で活躍できるように、学校生活のあらゆる機会を通じて商業人として必要な知識や技術を習得させ、生徒の心身を鍛錬する。

2 学校経営ビジョン(中・短期教育目標)
(1)「授業と部活動を真剣に」をモットーに文武両道の教育を推進する。 (2) 基本的な生活習慣を身につけさせ、心身ともに健全な生徒を育成する。 (3) 規律やルールを守り、努力する、心豊かな生徒を育成する。 (4) キャリア教育(生徒一人ひとりの勤労観や職業観を育てる)を推進し、地域社会や日本経済の発展に寄与しうる商業人を育成する。 (5) 教育公務員としての自覚を持ち、資質の向上に努める。 (6) 地域・保護者との連携を強化し、信頼・期待される学校を目指す。

3. 本年度の重点目標	4. 前年度の成果と課題
夢は大きく、あたりまえの事をあたりまえに (1) 明るい挨拶、気持ちのよい挨拶 (2) 授業と部活動を真剣に (3) 具体的な目標を持つ (4) 佐商生らしい身だしなみ (5) 自分のゴミに責任を持つ (6) 毎月1冊以上の読書(朝の10分間読書)	【成果】 進学・就職とも100%達成(国公立14人合格) 【課題】 (1) 特色ある学科を目指しての教育課程の編成 (2) 基礎学力の定着を図るための学習指導体制の確立 (3) 危機管理体制の強化を図る。

5. 総括表

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
学校運営	学校経営方針	・本年度重点目標の周知	・教職員・生徒・保護者に周知する。 ・周知度を90%以上にする。	B ・周知度90%以上を目標に掲げ取り組んできたが、教職員は当然周知しているものの、生徒で61%、保護者が79%の浸透率であった。	・職員会議や全校集会等で説明する。 ・学校便り、後援会総会、学級懇談会等の折りに周知を図り、具体的取組みを説明する。	・学校便りやHP、後援会総会、学年保護者会等で保護者への紹介に努めてきた。また、生徒にも全校集会やHRで説明してきた。6項目すべて言えないにしても、ほとんどの生徒が内容を理解している。
	教職員の資質向上	・研究授業(公開授業)の推進 ・観点別評価の研究推進	・教師一人当たり、年最低1回以上研究(公開)授業を実施する。 ・観点別評価や学力把握に関する研究を行い、その成果を授業改善に具現化する	B ・地域や保護者に対して、後援会総会時に公開授業を実施したり、県の教育週間時に学校開放週間と称し授業を公開したが、教職員の資質向上に資するような高いレベルではなかった。 C ・各教科においては観点別評価については教科ごとの工夫をして評価できた。しかし、年度末の評価など統一した評価規準については曖昧なところもあった。	・指導方法の工夫・改善のために、各教科での研修や研究の充実を図る。 ・何時でも公開授業ができる体制づくり ・観点別評価や新学習指導要領等の研修会を計画的に行う。	・生徒や指導者ともに、授業に取り組む姿勢は良好であったが、教職員の資質向上に資する工夫や改善を図る研究授業ではなかった。 ・各教科ごとの研修や研究の充実が必要である。また、パソコンや視聴覚機器を用いた授業の研究や計画的な実施が課題である。
	開かれた学校づくり	・社会の変化に対応した教育の実践	・年1回は研修を受講する。	C ・3年研、10年研等定められた研修は受講したが、任意の講座については目標を達成できなかった。	・県教育委員会や教育センター研修等を活用し、教育環境の変化に的確に対応できる教員の育成を図る。	・人権・同和教育関係、生徒指導関係、各教科部会関係の研修については参加できた。ただ、授業確保や学校行事等の関係で自らの研修希望が少なかった。研修参加への意識を持ち続けるための工夫も必要である。
	開かれた学校づくり	・一日体験入学の実施	・中学生の参加者数を昨年並み(1000人程度)の参加を目指す。	A ・体験入学を二日にわたって実施し、993名の参加があり、所期の目的は達成した。	・中学校への学校説明(DVD・生徒代表発表)内容の充実を図る。(学校の特長・3学科の特長を充実させる) ・制服、各部紹介パネル展示等	・生徒主体による学校の特長や学科の説明も充実したものであったが、受入人数は飽和状態にあり、体験形態について検討が必要である。 ・特に制服や各部活動の紹介パネル展示について検討したい。
開かれた学校づくり	・家庭や地域への情報発信(鯨の門だより)	・鯨の門だよりの保護者への周知度を85%以上にする	A ・毎月1回を目途に鯨の門だよりを発行することができた。定期的な発行ができたことで、情報発信のサイクルが定着してきた。学校での活動を見える形で表現できた。	・学校のホームページや「鯨の門だより」を通じて、学校の情報を公表し、ホームページについては、逐次内容の更新を図る。(閲覧の状況、件数の確認) ・アンケートによる保護者への配布確認、内容の感想	・定期的な発行はできたが、ニュース性の高いものはタイムリーに発行したほうが良いと感じる時もあった。	

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
学校運営	開かれた学校づくり	・学校施設や教育資源の地域への開放	・各機関からの要望に対する開放に向けての条件整備を行う	A ・学校行事に影響がないときは、施設を開放できている。また、11月には4日間学校開放週間を設け、授業参観が出来るようにしている。	・学校施設を各種試験会場や地域行事等に開放する。 ・地域行事に積極的に協力参加する。	・各種検定等の会場、地域団体使用については、学校行事等に影響のないように貢献できた。また、学校開放週間の来校者も増加した。
		・地域との連携	・「高校生Teacher講座」の3つの講座を担当する。	A ・男子バスケット部、フェンシング部、英会話部、情報処理部の4部が参加し、小学生76名に対し各部の内容を指導した。参加した小学生からは楽しかったという感想を得た。	・夏休みに実施される神野公民館主催の「高校生Teacher講座」に参加し小学生への指導をとおして地域との連携を深める。	・本校生にとっても小学生との交流をとおして学ぶことの多い取り組みであった。夏期休業中に限定しなければ、もっと多くの部が参加できると思う。
		・学校評議員制度等を活用した学校運営の推進	・学校評議員会を学期に1回実施する。	B ・4人の評議員の日程調整は大変難しかったが、3回の会議を設定することができた。しかし、第1回目は急な行事で紙面報告となった。	・学校評議員会を学期に1回実施し、各委員から出された意見を吟味し、学校運営に反映する。 ・学校評議員に授業を参観していただき、意見を聴取し、授業や行事の改善を図る。	・学期毎に開催し本校からの状況説明と各評議員から貴重なご意見を頂いた。また、多くの学校行事に参加し普段の生徒の活動状況を見て頂くことができた。今後は、これらの意見を学校運営にさらに生かしていきたい。
		・保護者や地域との連携	・保護者や地域の人を対象に、3回以上公開授業を実施する。	B ・後援会総会時に1日および学校開放週間に4日公開授業を実施できた。保護者には主に担任の授業を参観してもらいクラス担任と保護者の連携を図った。	・後援会総会時に、公開授業を実施する。 ・学校開放週間に全ての授業・部活動等を公開する。 ・後援会広報誌を発行する。	・後援会総会および学校開放週間に公開授業を実施した。 ・学校開放週間では参加者も昨年に比べ倍近くの参観者があり、来校された方々にはアンケートを実施し、「学校への要望」等貴重な意見をいただいた。 ・11月に学年別の保護者会を後援会主催で実施した。出席率が26%と期待値より低く、今後実施の時期や内容の改善が求められる。 ・後援会新聞「恒星」の創刊できた。今後さらに充実した広報誌を発行できるように努力した。
教育活動	学力向上	・基礎学力の向上	・朝のHRの時間を利用して、漢字テスト・英単語テストを行う。	A ・年間を通して漢字テストを13回、英単語テストを5回実施できた。	・週間行事予定で事前に周知し、家庭での学習を促す。	・実施計画に基づき各学年より事前指導・事後指導を徹底することが出来た。
		・授業時間の確保	・出張等による自習時間を年間30時間以内に努める。	A ・事前にわかる出張等については、原則として振替が出来た。また、急な年休についてはそのクラスの属する学年で授業等を行った。	・出張等に関する職員間の連絡を密にして、振替等を確実に行う。	・授業時間の確保のため、出張等については原則振替を行うが、習熟度授業等クラスを展開している場合や組授業の場合は授業の振替が困難であった。授業展開の工夫が必要である。
		・資格取得への取り組み	・卒業までに全員に1種目以上1級の資格取得をさせる。 ・卒業までに3種目1級以上の取得者数を50人以上にする。 ・卒業までに情報処理科の生徒全員に情報処理1級の資格を取得をさせる。 ・国際経済科の3年次までに、全員に実用英語検定準2級を取得させる。	B ・年間授業計画の充実、及び生徒に対する事前指導・事後指導等を行うことにより、授業に対する意欲・関心・態度に成果が見られた。また、部顧問による協力で課後の指導がスムーズに行われた。	・理解度を見るための確認小テストを実施し、到達していない生徒には、補講を実施する。 ・高度な資格を取得させることで、進学に生かした指導体制を確立する。 ・各種検定前の強化指導を図る。(部活動顧問との連携)	・3種目以上1級の資格取得は、 ①3種目40人(31) ②4種目32人(18) ③5種目17人(11) ④6種目2人(10) ⑤7種目1人(3) ()内は昨年度計92人の生徒が資格取得(総計で20増)また、高度資格取得については、日商簿記81人、基本情報技術者試験9人、ITパスポート1人、実用英検2級3人、準2級45人であった。来年度においても、全種目においてなお一層の成果が得られるよう指導体制の充実が図られる。
人権・同和教育の推進	・あらゆる差別を許さない精神と態度を育成する。	A ・人権・同和教育に関する会議を1回、人権・同和教育の職員研修を4回実施できた。	・各学期に1回以上、人権・同和の研修会を実施する。 ・各種人権・同和研修会に積極的に参加し、職員の研修に努める。	・人権・同和教育の年間指導計画通り取り組むことができた。来年度の課題として、講師謝礼等の予算が不足しているので、検討が必要である。		

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
心の教育		・外部講師による講演実施 ・カウンセリングの充実 (不登校生徒の減少)	・登校(欠席)状態を把握し、早期対応・早期解決を図る。	B ・S.C.(スクールカウンセラー)の月2回の来校により、欠席の多い生徒、教室に入れない生徒への対応を、担任・学年主任が中心となって早期に対応し早期解決の糸口を作ることができた。各教科担任も該当生徒への教科指導を熱心に行い、担任・学泉主任の大きな手助けとなっていた。	・いじめの問題を生徒・職員全体のこととして捉え、「命の大切さ」を理解させるための講演を実施する ・家庭との連携 ・スクールアドバイザーとの連携・協力(教職員のカウンセリングマインドの高揚を図る)	・いじめの問題ばかりではなく、障害のある生徒への思いやりの心、その生徒の保護者の悩み等について職員研修を実施した。特にいじめの問題に関しては、アンケートを実施しその回答内容を全職員で検討し、いじめ等の予防に努めた。保護者との連携についても、S.C.との面談面接を担任等より積極的に動いてもらい、保護者のみならず職員に対しても適切なアドバイス・コンサルテーションをしてもらった。問題の共有・共通理解を来年度も進めていきたい。
		ボランティア活動の推進	・年1回以上のボランティア活動を実施する。	C ・学年単位で実施している校外清掃については、1・3年生は計画どおり実施できたが2年生は雨天のため中止した。	・クラスごとに地域を割り当て清掃活動をする。	・生徒の多くは小学生の頃からボランティア活動についての経験があり、ボランティア活動を受け入れやすく意欲的に取り組んでくれている。今後は雨天の場合でも順延し実施できるように期日に余裕のある計画にしたい。
		・体験活動の実施	・インターンシップの活用	A ・生徒の体験を通じて、実社会に触れ、学校生活に生かすことができていると考える。	・異年代との関わりを通して、多彩な体験をさせる。	・将来の本人の希望とは、違った体験をすることもあるが、そのことで、大人との違い、仕事に関する考え方を身につけている。この点については、今後時間をかけて考える必要がある。
		・読書の推進	・自己を見直す時間をつくる。	B ・図書の出借冊数は増加したが、特定の生徒に限定されている。	・推薦書の紹介(図書課・教職員から紹介)	世界や日本の名作の入門書として漫画シリーズを導入し、読書内容の向上を図った。この取り組みも継続が必要と思われる。
健康体づくり		・食育の推進	・朝食喫食率を90%以上とする。 (生活習慣病の減少)	B ・アンケートの結果、「朝食を毎日食べる」は全体の78.7%であった。さらに「朝食を食べることが多い」まで含めると93.7%であり、大旨目標を達成している。	・実態把握のためアンケートを実施し、生活のリズムの安定を図る。 ・学校栄養士による指導 ・食育関連の情報発信(プリント配布)	・実態把握は、保健課のアンケート結果によるものである。生活全般において、保健課や体育科家庭科が中心となり、生徒の観察及び指導を行った。また、3年家庭クラブ委員の保健便りの食育コーナーによる情報など提供し、作成する生徒自身も意識を高めて効果的であった。次年度は、朝食の欠食率が完全に0%になるよう努力したい。
進路指導		・進路希望の達成	・就職内定率、進学決定率とも100%を目指す ・国公立合格15人以上の合格者を目指す。	B ・就職内定率100%、進学決定率100%を達成することができ、進路決定については、十分な成果が得られたと考える。しかし、国公立合格は12名と前年より減少した。	・卒業生の就職先を訪問したり、新規企業開拓にも力を入れ、より優良企業への就職を実現する。 ・進学希望者に対する補講の実施。 ・各学年ごとに進路啓発のためのガイダンスを実施し、それぞれの時期における進路への目的意識を持たせる。 ・公務員希望者に適切な指導を行う。 ・高度資格取得への挑戦や小論文指導の強化で合格者増を目指す。 ・朝補習における実施教科の内容充実を図る。	・就職については、多くの企業を訪問し、求人の願いを行ったが、現在の経済状況により、その数は伸びなかった。昨年の63%程度にとどまっている。しかし、全職員、県、ハローワークの協力により、2010年になってから求人が増加するなどの効果があった。 ・進学については、全職員のもとに小論文等の指導、補習体制が整いつつある。今後ともより良い体制へと調整していきたい。 ・学年と進路との連携及び各行事の計画・運営を、行事がスムーズに行くようにしていく必要がある。
教育活動		・基本的な生活習慣の確立	・皆勤の生徒を5%増やす	C ・皆勤にこだわる生徒も増え、確実に欠席、遅刻は減少した。	・「明るい挨拶、気持ちのよい挨拶」運動を推進する。 ・正しい礼儀作法(言葉遣い指導)と佐商生らしい身だしなみ等、マナー指導の強化。	・一部の生徒に遅刻が見受けられた。担任の先生より、家庭への連絡、指導をいただいているが、今後も早期対応、継続的な指導を要する。 ・特活課の協力により、生徒会、風紀委員による、朝の挨拶運動が実施され、大変良かった。
生徒指導		安全教育の徹底	・交通事故(特に自転車事故)の減少 (10件以内)	B ・交通事故は7件であった。交通ルールに関する外部からの苦情が数件あった。	・交通指導の徹底と安全教育に対する講話の実施。 ・集会ごとに交通マナー、危機管理意識の啓蒙を図る。	・交通事故は、ちょっとした不注意から車との接触事故がほとんどであった。さらに安全教育の徹底を図り、交通マナーの向上を図っていくことが課題である。
		耐性、忍耐力の育成 (服装基準の厳守)	・校則を守らせる(服装再検査の減少) ・周知度を80%以上にする。	C ・眉の加工は、全体的多い。下校中の服装の乱れも、外部から連絡が数件あった。	・生徒指導方針を年度当初に職員、生徒や保護者に明確に示し、定期的にその達成度を確認する。	・眉加工が多く見られた。ファッションと身だしなみの意味を、理解させる指導が必要。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
教育活動		・事後指導より事前指導の徹底を図る。	・事件や事故の発生率を昨年より下げる。(10%)	B ・特別指導は、2件と大幅に減少した。	・事件や事故を起こしてから指導するのではなく、事件や事故が起こらないように事前指導を徹底する。	・学業や部活動の中で、心の教育ができればと
	図書	・図書館の利用促進	・生徒月1冊の読書を目標とする。 ・貸出冊数アップを目指す。(一人3.2→3.5までアップ) ・図書館便りによる広報活動の充実	B ・昼休み・放課後を中心として図書館を利用する生徒が増加し、一人当たりの貸出冊数も4.4冊に増加した。	・クラス委員による読書の推進と学校図書利用の呼びかけにより、読書量・貸出量のアップを図る。 ・新刊案内、お薦めの本など広報活動を充実させる。(小論文対策用・課題研究図書コーナー設置) ・生徒の学習に必要な書籍を充実させる。	・今年度は、貸出冊数などの数的な目標はある程度達成することができたが、まだ図書館を利用する生徒は限定されている。次年度は、今年度の取り組みを継承しつつ、生徒の多様な需要に対応できるように、全生徒に対する取り組みが必要と思われる。
		・生徒の個性や能力を引き出す	・参加意識の高い学校行事を作る。	B ・佐商祭では5月から文化祭の企画会議を開いたり、体育祭団長会議を毎日開き準備に時間をかけた。 ・生徒総会では生徒の出番を増やすためにクラス目標の発表をした。 ・学校行事の時は放送部、書道部、生徒会、保健委員などの出番を多くした。	・企画の段階から生徒の意見を聞く。 ・発言や発表の機会を増やす。 ・司会やお礼の言葉、浄書などをできるだけ生徒に任せる。 ・準備に時間をかけ満足度の高い佐商祭(文化祭・体育祭)を実施する。	・佐商祭文化祭の基本形はできつつあるが課題も多く、さらに工夫をしていきたい。
		・生徒の主体的な取り組みを増やす。	・生徒会の月目標を決定し実行する。 ・各種委員会活動を月1回行う。	B ・毎月の生徒会目標を決め、実行する取り組みが定着しつつある。 ・生徒会主催の清掃ボランティア活動が生徒の発案で始まり、これに部活動単位での参加などがあった。	・毎月の目標をクラスで話し合い、それを基に全校での月目標を実行する。 ・クラス役員としての自覚を高め、委員会活動を活発に行う。	・生徒会目標を毎日の学校生活でどう実施しているかを検証していきたい。 ・生徒会本部役員は意欲的に取り組んでいる。
	特別活動	・部活動の活性化	・部活動入部率95%以上を目指す。 ・運動部は高校総体で優勝旗6本獲得を目指し、文化部は大会やコンクールの入賞数を増やす。	B ・5月1日時点での入部率は94.7%であった。 ・県総体では男子柔道、男子バレー、男女水泳、男女フェンシングの計6本の優勝旗を得た。商業系の競技会では全部門優勝であった。	・体験入部期間を設定する。 ・退部届の活用で退部者に対する追指導を行う。 ・全校集会や主将部長会議で強い佐商の意識付けをしたり、大会やコンクールへの出場や応援を増やす。	・退部者の把握と事後指導のための退部届の利用が定着し始めた。 ・運動部、文化部とも実績を積んでいる。このことが更なる目標につながるようにしたい。 ・主将・部長会議を定期的開催していきたい。
		・勉強と部活動の両立	・部員の学習に対する意欲を高める。	C ・8割弱の部は週1回の休養日を設定している。 ・考査前・中の部活動時間が長い部があった。 ・勉強会を実施する部が前年よりも増えた。	・部活動の休養日を設定する。 ・定期考査期間中は部単位での勉強会を実施する。	・全ての部が週1日の休養日を設定するように呼びかけていきたい。 ・勉強会をさらに増やす方策を考えていきたい。
		・部室管理の徹底	・随時部室検査を行う。	C ・部室の使用状況について定期的な確認ができていない。	・部室の清掃状況や備品の使用状態を点検する。	・部室検査を定期考査ごとに実施したい。また、毎日の部室の鍵の管理を徹底したい。
		・定期健康診断の事後指導の徹底	・健診後の治療率のアップを図る。(視力70%) (歯科50%)	B ・目標には届かなかったが、昨年と比べ、歯科の受診率が上昇した。文化祭での企画や三者面談を利用し勧告したことがアップにつながったと思われる。	・治療に対する意識向上と未治療者への治療を促し、治療率を上げていく。(保護者や部顧問の理解と協力を得ていく)	・担任はもとより、保護者や部活動の顧問の協力を得て、受診率のアップにつなげたい。視力については、2学期、矯正が出来ていない生徒を対象として再測定を実施、個別指導をしたい。
		・ヘルスプロモーションの促進	・日本スポーツ振興センターへの手続きを5%減。	A ・昨年に比べ、約10%減少した。特に、部活動での怪我が減少した。	・月1回又は臨時的「保健だより」を利用し、心身の健康づくり、安全に対する意識の啓蒙を図る。 ・学校保健計画に基づき、本校の現状を踏まえて保健指導を行う。	・日本スポーツセンターへの手続きの件数は、減少しているが、高額療養の件数は、増加した。保健だより等を通して健康と安全衛生に関する啓蒙活動を行ってきたが、さらに学年会やLHRを活用し生徒・職員の意識を高めたい。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題	
教育活動	保健	・ゴミの減量化	・ゴミの量を昨年度より減らす。 (5%以上)	A ・燃えるゴミ、プラスチック、金属、缶、ペットボトル(キャップも分別)の5種類の分別を徹底して行っている。また、ゴミ減量の啓発活動として、年3回ゴミ出し禁止期間を設定した。	・環境美化週間(月に1回)を設けて各クラスから出されるゴミの量軽減を図る。 ・各自持ち込んだものは責任を持って処理すること。(持ち帰り運動の推進)	・ゴミ分別をより一層徹底したい。また、「自分が出したゴミは各自持ち帰る」という行動を周知させていきたい。最終目標として、学校でのゴミ出しゼロを目指して活動していきたい。	
		・教育相談体制づくり	・不登校生徒等への支援体制を確立する。	A ・不登校生徒の対応については、担任・学年主任、本人・保護者等とS.C.との面談面接をおこない、不登校気味の生徒は別室登校へと変わったりして、登校意欲や学習意欲を持つようになった。本校では、別室登校生徒に対する対応(申し合わせ事項)を内規に盛り込んでおり、関係者会議を得て校長承認、全職員への報告教科担当者会議を設けるなどして、	・講演会や保健便りを通じ、心の教育や安全教育の充実を図る。 ・保健室と学年会(担任)および教科担当との連絡会を通じて、不登校生徒への理解と支援のあり方を検討し、協力体制を確立する。	・性教育・歯周病・エイズ等々の講演会を実施したり、生徒保健委員会では、毎月当番制で「保健便り」を発行し、生徒の様々な問題に対しての考える力を養成した。保健室と学年会(担任会)、教育相談係等とも、生徒の日常生活の問題点や悩みに関して、適宜情報交換を実施した。特に教育相談係とは、不登校傾向や別室登校をしている生徒に関する情報交換を定期的に月一回月末に実施して、生徒への理解・援助・支援等のありかたを検討してきた。	
		・保護者との連携	・後援会総会への参加率を70%以上にする。 ・学年別保護者会の内容検討(参加率50%以上)	C ・後援会総会への参加率は66%であった。 ・学年別保護者会を11月に実施したが26%の参加率であった。今後内容や時期についてさらに検討が必要である。	・授業を公開(主に担任による授業)することで、多くの参加を促す。 ・学年保護者会の実施時期と内容等の検討。	・後援会総会時に1日および学校開放週間に4日公開授業を実施できた。保護者には主に担任の授業を参観してもらい担任と保護者の連携を図った。今後さらに授業を公開できるよう工夫していきたい。	
		情報管理	・個人情報保護と情報漏えいの防止 ・学校ホームページの内容充実と定期的更新	B ・定期的調査と職員への意識強化 ・最新情報のアップに心がける。 (各関係部署からの情報収集)	・個人情報漏洩については新聞紙上でも問題になっており、セキュリティチェックを毎月実施することにより意識強化に努めた。ホームページを全面的にリニューアルし、情報提供のスピードアップができた。	・情報セキュリティ月ごとの調査実施 ・学校行事や部活動の結果をいち早くホームページで知らせ、学校のPR活動に生かす。	・情報セキュリティの調査では特に問題がなかった。ホームページはリニューアルし、保護者や地域の方にも興味を持って見ていただけるようになった。
		学校行事	学校の重点目標に則した学校行事の実施	B ・学校行事における授業時数減を最小限にとどめるように工夫し、定期考査後に実施できるものについてはできるだけ定期考査終了後に実施した。	・各課との連携を強化し、内容の充実と精選により、授業を確保する。 ・学校行事を考査後に実施する。	・各校務分掌・各教科等の協力を得て、考査終了後の行事や外部講師による講話を実施できた。 ・定期的に行う運営委員会で学校行事の精選に向けた検討を行う。	
		家庭学習	家庭学習の時間確保	C ・毎日最低1時間の確保	・アンケート調査の結果、1年生で17.4%、2年生で15.7%、3年生で12.8%の生徒しか1時間以上の家庭学習時間が確保されていない。部活動に所属している生徒や遠方から通学している生徒も多く、疲れや帰宅時間が遅いため学習時間が十分に確保できていない。	・各教科・科目で課題を出す。(提出期限の厳守と未提出者の指導)	・各教科で宿題や課題が出ているが、提出期限が守られていない生徒も多い。 ・アンケートの実態を捉え各教科や部活動顧問との連携を図り学習時間の確保と学力向上を図る。
	学習関係	・基礎学力の向上	・漢字テスト、英単語テストの不合格者数を学年5%以内にとどめ ・学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。 ・課題の提出率が100%にする。 ・真剣な授業態度を育成する。	B ・おおむね到達できた。漢字テストについては各クラスで課題プリントを活用し1週間前から取り組んだ。英単語は授業で指導した後に小テストを行ったり週末課題で定着を図った。 ・入学時より学習に取り組む姿勢については、課題の提出や授業を受ける態度について波戸岬研修や、学年集会等で強く指導してきた。その結果、1年次終了において単位未修得になる生徒はいなかった。 ・ほとんどの生徒は期日を守って課題等の提出ができた。各教科担当者はもちろん担任による指導ができた。	・実施計画に基づき、正副担任の連携を図って、事前指導・事後指導を徹底する。 ・ホームルーム時の有効活用により、定期考査前の指導強化を図る。 ・課題提出状況のチェックを確実にし、未提出者に対する指導を徹底する。 ・始業チャイムの前に着席させ、授業の準備をさせるとともに、居眠りや類杖をつくことのないように、常に注意を払う。	・平均点80点以上の成績上位者は学年で45名 ・漢字テスト満点者8名、英単語テスト満点者23名 ・各学期に1度定期考査前に成績不振者対象の激励会を開き、学習に真剣に取り組む意識付けを行ったことで学年末考査での欠点者0であった。 ・毎週の担任会で、学年全体の意志統一と共通理解を図ることにより成果を上げることができた。	

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
1学年の教育活動	生活関係	・基本的な生活習慣の確立	・保護者との信頼関係を構築する。 ・全クラスで出席率95%以上を目指し、長期欠席者を未然に防ぐ。 ・違反行為者「0」を目指す。	B ・担任、家庭、または部活動顧問との連携により生徒指導上の特別指導は0であった。 ・出席率は学年全体で98.82%で目標達成できた。特に1年4組、1組は99%以上の出席率だった。	・担任・副担任・学年主任と保護者との連絡を密にする。 ・長期欠席者対策として、保健室や教育相談と連携し、スクールアドバイザー等に相談しながら、早期解決を図る。 ・ホームルームや学年集会等を利用して、違反行為を未然に防ぐ指導を徹底する。 ・教室のロッカーの整理整頓や担当掃除区域での清掃活動の指導を徹底する。	・皆勤112名、精勤49名とほぼ半数の生徒は毎日元気に登校し学習や部活動を行うことができた。来年度はさらに多くの生徒達に皆勤を目指してほしい。 ・別室登校2名の生徒については後半は保健室、教育相談の協力をもってうまく連携ができた。ただ、教科担当者間の共通理解が足りない点もあり、今後の課題であると思う。 ・校内での挨拶、礼儀を始め基本的な生活は身に付いたが、校外でのマナー(制服の着崩し、交通ルール違反等)を指導徹底させることが課題である。
	その他	・進路希望の達成	・職業意識・進路意識を明確に持たせることにより、進路希望達成のための具体的な個人目標を100%確立させる。	B ・4/20～7/14まで学年主任による個人面談を行い、高校入学後の早い時期に自己を見つめる機会を与え、考える機会が持てた。 ・全体的にはまだ時間があるせいか、進路については未だ、真剣に具体的に考えることができない生徒もいる。	・学年個人面談を実施し、早期意識付けをする。 ・ホームルームや学年集会等を利用して、進路ガイダンスを行い、職業観を養うとともに、自己の適性を見出させる。 ・進路(就職または進学)に対する考えを明確にさせ、進路希望達成のために必要な検定資格取得の指導を徹底する。	・1学期に1度の割合で進路ガイダンスを行い、自己の適性を見つける指導が持てた。特に3学期は「インターンシップ事前指導」に時間を割き徹底した現場の厳しさを体験することによりより強く職業観を身につけさせることができた。
	その他	部活動の活性化	・文武両道を前提としながら、95%以上の部活動加入率を目指す。	C ・徐々に部活動を退部する生徒が増えたことが残念である。勉強との両立ができないとの理由で退部願いを申し出る生徒が多かった。現在、約94%の加入率である。	・担任団を中心として、機会あるごとに生徒への声かけを行い、部活動加入率アップを図る。 ・部活動が教育の一環であることを確認し、部員が挨拶や礼儀を身に付け、学校の中でリーダーシップを発揮できるよう育てていく。	・部顧問との連携により部活動を通して様々なことを学んでいる。 ・1学期当初は大多数の生徒が加入していたが2学期以降の退部が目立ち、生徒自身の時間の使用の仕方にも問題があるように思われる。 ・家庭学習と部活動の両立に悩む生徒が多かった。部活動を通じてもっと強い意志や体力、そして人間力を身につけてほしい。 ・今後は辞めた生徒が次の部活動に加入するように働きかけたい。 ・専門進学と部活動の調整は未だ課題の1つ。
2学年の教育活動	学習関係	・基礎学力の向上	・漢字テストの不合格者を学年の5%以内にとどめる。 ・課題の提出率を100%にする。	B ・各クラスでの事前指導と、不合格者に対する居残り学習を行ったため、不合格者を学年の5%以内にとどめることは、ほぼ達成することができた。 ・課題未提出の生徒に対する再三の呼びかけによって、課題の提出率を100%に近づけることはできた。	・実施計画に基づき、正副担任の連携を図って、事前指導、事後指導を徹底する。 ・課題提出状況のチェックを確実にし、未提出者に対する指導を徹底する。	・漢字テストオール満点者が11名、英単語テストオール満点者が15名という結果であった。さらに多くの生徒がオール満点となるよう指導をしていきたいものであるが、追指導がなければ勉強しないという雰囲気はなくしていきたい。 ・課題の提出率を100%にすることは大切であるが、形だけの提出ではなく、その取り組み方を重視したい。
	生活関係	・基本的な生活習慣の確立	・全クラスの出席率98%以上及び皆勤・精勤70%以上を目指す。 ・違反行為者「0」を目指す。	B ・全クラスの出席率は98%以上であり、最高で99.7%のクラスがあった。また、皆勤129名・精勤64名ということで70%以上は達成できた。 ・違反行為者「0」を目指したが、1学期に1名の指導を行った。	・家庭との連絡、保健室や教育相談との連携を密にする。 ・ホームルームや学年集会を利用して違反行為を未然に防ぐ指導を徹底する。	・家庭との連絡、保健室や教育相談との連携を密にすることで、不登校の生徒の早期発見と早期指導を心掛けたが、力及ばずといったこともあった。 ・ホームルームや学年集会を利用して違反行為を未然に防ぐ指導をしてきたが、生徒の心を育てる指導が不十分であった。
	その他	・進路希望の達成	・職業意識、進路意識を明確に持たせることにより、3月までに進路目標を100%確定させる。 ・インターンシップ充実度100%を目指す。	C ・職業意識、進路意識を明確に持たせるための進路啓発研修を行うことにより、ほとんどの生徒が、おおまかな進路目標を確定させることができたが、100%には至らなかった。 ・インターンシップを体験して良かったと答えた生徒が80%であった。	・インターンシップや修学旅行など各種特別活動の事前指導・事後指導を十分に行い、世界観や視野を広げ、社会性を身に付けさせる。 ・インターンシップ実施に向けて、企業や職種研究を行なう。	・進路指導課の協力を得て、進路啓発研修を機会あることに行い、職業意識や進路意識を高めることができ、3月の模擬面接前には、進路指導室で求人票を調べたり、学校の特色を調べたりする生徒が、かなり増えた。 ・インターンシップ実施に向けて、事前指導を12時間行い、一生懸命真面目に取り組んでくれたようであり、受入事業所の評価もおおむね良かった。また、事後指導を5時間取り、文化祭で報告を行った。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
		・部活動の活性化	・文武両道を前提としながら、95%以上の部活動加入率を目指す。	B ・未入部者への声かけを行い、生徒会や社会体育を含めると95%以上の部活動加入率を達成することができた。ただ、文武両道が前提であったが、バランスの悪い生徒が少なからずいた。	・部顧問との連携をとり、部員の活動を応援するとともに、未入部者への声かけを行い、部活動加入率アップを図る。	・文武両道をはかるため、部活単位での学習会が行われていて、効果的であった。 ・部顧問との連携をとり、部員の活動を応援する体制の一つとして、学年主任や担任が部活動の様子を見学してまわるということをもよもかった。
		・生徒会活動に積極的に参加する。	・各クラス2人以上、生徒会役員として活動させる。	B ・各クラス2人以上を生徒会役員として活動させることはできなかったが、2年生13名が生徒会の役員として活躍している。	・学校活性化に繋がるように、生徒会活動に参加させる。	・部活動と生徒会活動を両立して頑張っている生徒がかなりいた。ただ、学校行事と大会や競技会の時期が重なると、生徒会活動に支障が出てしまうことは避けられない。
3学年の教育活動	学習関係	・基礎学力の向上と高度資格取得	・学年全体の評定平均値4.1以上を目指す。 ・各検定試験1級取得数のアップを目指す。 ・漢字テスト、英単語テスト満点を目指す。	B ・年間評定平均4.02。 ・検定1種目も1級に合格していない生徒が、105人残ってしまった。 ・漢字テストは、年間を通して満点だった生徒は3人から24人と増加したが、全員満点は達成できなかった。 ・英単語テストは、年間を通して満点だった生徒は14人から61人に増加したが、全員満点は達成できなかった。	・ホームルーム・個人面談・学年集会等を利用して、希望進路の実現に向けて評定平均値のアップと高度資格取得の重要性を再確認させ、学習意欲を喚起する。	・1学期は評定平均4.15ととても頑張ってくれたが、2学期3.86、3学期4.05と悪化した。進路決定後の指導の難しさを感じた。・1学期は、検定への意欲が高かったが、2学期以降は、進路決定や卒業に気持ちが向かってしまい、資格取得への喚起があまりできなかった。・漢字テストは、多少クラス間に差があったが、全体としては良い取り組みだった。不合格者も少なく、合格ではなく満点を目標にしたことは良かった。・英単語テストは、英語科の協力により、良い取り組みだった。
		・基本的な生活習慣の確立	・出席率99%以上および皆勤 ・精勤生徒80%以上を目指す。	B ・出席率98.97%と99%は達成できなかったがよく頑張れた。 ・皆勤・精勤の生徒数は、220人(80%)を目標にしたが、178人(65.2%)と全く届かなかった。	・ホームルーム・個人面談・学年集会を利用して、自立した社会人のなるために、自己管理(生活・健康)の重要性を認識させ、欠席者数の減少を図る。	・1学期の出席率99.63%だったが、2学期以降悪化し、最終的には99%を割ってしまった。皆勤・精勤も10月までは、229人(83.6%)だったが、その後悪化してしまった。後半の指導のあり方が課題である。
	その他	・希望進路の実現	・年度内進路決定率100%を目指す。	A ・2月23日に進路決定100%を達成できた。 ・今年度は、進学者157人(57.5%)と増加した。特に、就職から進学に切り替え、専門学校へ進学した生徒が多く見られた(進学者全体の42%)。	・進路指導課との連携を密にし、全体指導・個別指導を通して、段階的・計画的に進路研究および受験対策に取り組ませる。	・不況の中の厳しい進路指導であったが、多くの先生方の協力、特に進路指導課の熱い支援のお陰で、卒業式前に100%を達成することができた。ただ、専門学校に安易に流れた傾向が見られたことは反省点として残った。また、公務員志望の生徒の指導は結果発表が遅く、指導が難しいと感じた。
		・特別活動の充実	・各部活動各種大会上位入賞を目指す。 ・学校祭のアンケートで満足度90%以上を目指す。	B ・野球部が夏の佐賀県予選の決勝で敗れたものの多くの応援の中で見事なプレーし、感動を与えた。 ・高校総体は、例年並みの結果を残した。文化部も各種大会で優秀な成績をおさめた。 ・体育祭・文化祭ともに、3年生が中心となり成功させ、高い達成感・満足感を得ることができた。	・ホームルーム・学年集会等を利用して、部活動や学校行事(学校祭等)に積極的に参加し、高校生活最後の思い出を作るとともに、集団行動の中で人間力を磨くよう指導する。	・生徒達にとって最も思い出に残る高校総体や佐商祭の時期と、進路決定のための学習指導や受検指導が重なるため、早め早めに生徒を誘導することが必要である。また、2学期後半の時期に、いかにかして学校生活に気持ちを向かわせ、取り組ませるのか、とても難しい課題である。
	ITを活用した授業	・教職員全員が情報機器を活用した授業を行う。	B ・各教科や校務分掌で情報機器を有効に活用していた。	・情報機器を活用した授業を全教諭が学期に1回実施する。	・毎時間活用して教科とそうでない教科があるので、今後も学期に最低一時間を目標に取り組んでいきたい。	

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
特定課題	学校の個性化	・特色ある教育課程の編成	・3学科の特長を生かしながら新学習指導要領に向けた特色ある教育課程の編成に取り組む。	B 昨年度に教育課程の変更をしたばかりなので、新学習指導要領の導入に向けての準備をおこなった。	・生徒の興味関心や進路希望等に対応したコースを設け、教育目標や年間計画を明確にする。 ・アンケート等を通して実態を把握する。 ・新学習指導要領の内容を検討する。	・観点別評価では年間指導計画と評価基準との整合性が十分でなく、年間指導計画・評価基準の提出も徹底できなかった。 ・学科の再編整備を見据え、各学科の特長を明確にする教育課程編成のため各学科主任と新学習指導要領導入や学科改編の検討を行う。
		・外部講師の活用	・年間指導計画に沿った最低20時間以上の実施	A ・各学科の事前の打ち合わせや内容の充実が図られた	・生徒の多様な興味・関心に応えるとともに、より高度な資格取得や発展的な学習に結びつける。	・計画どおり実施でき、成果が表れたと思う。
		・大学等との連携への取り組み	・大学等との連携の基盤づくり(連携先検討)	B ・大学の講座、研究会や発表会に本校生徒が参加したり、大学から講師を招いて講演をしていただいたりして連携を強めることができた。	・高度資格(日商簿記1級)を取得させ、高大連携の基盤づくりを目指し、難関大学に挑戦させる。	・高度資格取得による高大連携は、本年度は達成できなかった。今後の課題である。しかしながら、佐賀大学での講座、研究会や発表会に本校生徒が参加したり、講師を招くなどの連携の基盤づくりはできてきたと考える。
		・インターンシップの推進	・実施学年生徒の100%の参加実現	A ・十分に対応ができており、成果がみられると考える。	・職場での体験を通して、勤労観や職業観を養うとともに、将来の進路を考えるきっかけとする	・体験を通して、将来の自分を見つめなおす機会が得られた。学年における進路との位置づけを検討し、インターンシップの経験をより生かせるように計画をしていきたい。
		・起業家教育の推進	・起業家教育の定着 ・知的財産教育の充実	A ・関係機関との連携強化が図られた。 ・事業として定着していること意識づけがしつかりできた。	・企業を興すまでの一連の流れ学習や新商品開発を目指すことで、将来の起業家の育成を図る。 ・特許庁のテキスト利用から、興味関心を喚起する。	・既存の商品開発をさらに進め、前例踏襲のみでなく発展的な起業家教育の充実した内容に取り組んでいくことが課題である。 ・今年度、販売実習を大型ショッピングセンターで行った。

6. 総合評価	<p>「夢は大きく、あたりまえのことをあたりまえに」を学校スローガンに教職員は勿論、保護者や地域の方々の理解と協力によって佐商生の育成に取り組んできた。生徒はこの1年間98.9%という高い出席率と、落ち着いた学校生活で、部活動や高度資格取得に成果を上げたと思える。また、厳しい経済状況の中で100%の就職内定と、半数を超える進学者の指導体制も充実してきた。設定した目標には達成できなかったものもあるが、効果が十分に見られなかった項目については、次年度へ向けての課題として捉え引き続きその実施方法など検討し取り組んでいきたい。</p>
---------	--

7. 来年度への改善策	<p>創立100周年からホップ・ステップ・ジャンプと103年目の年に向けた、新しい歴史作りに生徒・教職員一体となって取り組む必要がある。「勉強と部活動を真剣に」や「自宅学習の習慣づくり」を重点目標に、学習の充実について勉強の習慣化・定着化を図るとともに、進路目標の早い時期での確立や部活動の充実を図り、さらに飛躍する年度にしていきたい。また、「明るい挨拶、気持ちのよい挨拶」や「佐商生らしい身だしなみ」の重点目標の実現のためにも、地域から信頼される学校、魅力ある学校として評価されるように、今年度以上の協力体制が重要と考えている。さらに、本校生徒のほとんどは基本的な生活習慣や基本的なマナーが身につく、落ち着いた学校生活を送っているが、高校生活に意義を見いだせず、つまづきかけた生徒が安心して高校生活を送れるよう方策を考え最善を尽くしていきたい。「夢は大きく、あたりまえのことをあたりまえに」できる生徒を育成し、目標達成実現に向けて来年度も継続して取り組んでいきたい。</p>
-------------	--